

# さくら



令和7年3月3日(月)

## 梅の花に思う

東風吹かば匂ひおこせよ梅の花主なしとて春を忘るな



学問の神様として知られる菅原道真すがわらのみちざねが、無実の罪で九州の太宰府に流された時、京都の自宅で大切にしていた梅の木を思って詠んだ歌です。

現代語訳をすれば、『春になって東風が吹いてきたら、その風に花の匂いを乗せて送ってくれ。主の私がいなくなったからといって、花の咲く春を忘れるな』となります。

先日、近くの公園に行くと、梅の花が咲き誇っていました。近づいてみると、甘さの中に清涼感を感じる匂いがしました。菅原道真も、同じ匂いをかいていたかもしれません。

以前、次のような話を聞いたことがあります。「梅の花は、厳しい冬の寒さを耐え忍ぶからこそ初春に美しい花を咲かせ、かぐわしい香りを発する。人間も苦難や試練を乗り越えることで、一段と成長できる」

これは、西郷隆盛が好んだ「雪に耐えて梅香麗し」という漢詩の一節の現代語訳です。元広島東洋カープの黒田博樹投手は、この言葉を座右の銘にしていたそうです。

人生は楽しいことばかりではありません。苦しいことや大きな壁が目の前に立ちだかることもあります。そこから逃げてしまうことは簡単ですが、それではいつまで経っても人として成長できません。人生には、避けては通れないこともたくさんあるのです。

夢や希望をかなえるためには、現実から逃げず、努力を重ね、目の前にある壁をひとつひとつ乗り越えていくことが大切なのです。壁の向こうには、必ず希望に満ちた未来が待っているはずです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

